

四半期 成長率

とチャート分析

結喜たろう【著】

YUKI TARO

北山広京【監修】



【免責事項】

※本書で掲載しているサンプルは教育的な目的において紹介しています。

本書およびサンプルに基づく行為の結果発生した障害、損失などについて著者および出版社は一切の責任を負いません。

※本書に記載されているURLなどは予告なく変更される場合があります。

※Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ TradingViewは、米TRADINGVIEW, INC.の登録商標です。

※本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。

まえがき

あなたの株式投資のトータル収益はプラスですか？

僕は株を始めてから10年間、マイナスでした。

僕が株式投資を始めたのは1999年末です。当時ITバブルの過熱期でいきなり資産2倍になりましたが、すぐにバブル崩壊の洗礼を受けて、利益をすべて吹き飛ばします……。

2003～05年、小泉政権の上昇相場で再び大きく利益を出して喜ぶも、今度は2006年ライブドアショックで、またしても利益（それもン千万円）を吹き飛ばします……。

しかも、ここから、まったくと言っていいほど「勝てなくなる悪夢」が続きました。まるで呪われているようでした。

あるとき「そもそも、なんで勝てないんだろうか」と考えました。そして、過去の売買記録を何度も何度も見直しました。

ここでようやく、「これじゃ、勝てるわけないか…」と気付いたのです。それからというもの、様々に試行錯誤しました。

ようやくコツがつかめてきたのが、2009年ごろ。この年から劇的に変わりました。トータル収益は毎年プラスを維持するようになります。

そして、2012年末――。

日本株は大きく上昇を開始します。2021年までの8年間で日経平均は3倍以上です。その間、僕の利益も大きく上昇しました。

成功者として、いくつかの雑誌で紹介されたり、ラジオ番組に呼ばれたりもしました。新しいことを学ぶ機会もたくさんあり、僕の投資スタイルはますます洗練されたと思います。

世間では、株式ブームが続いています。日本政府も積極的に金融投資を呼び掛けています。

ところで、この長らく続いた上昇相場でも、トータルで利益を出している個人は、1割ぐらいと言われているようです。これほど日経平均が上げたのに、どうしてでしょうか？

さらに市場全体が軟調になると、個人投資家はさらに勝てなくなります。

僕はよく投資関係の集まりなどに顔を出したりするのですが、「勝てない」という人とお話をすると、ほぼ全員が、昔の僕と同じような過ちを犯していることに気が付きました。

僕が勝てなかった理由は次のようなものでした。

- ・上がらない株を買う
- ・天井で買う、大底で売る
- ・有り金いっぱい買う

当たり前ですが、これでは勝てませんよね。

これらのことを1つでも繰り返していると、たとえ株価指数がどれだけ上昇したとしても、最終的なトータル利益はマイナスになります。

もし、あなたも同じような原因で悩んでいるとしたら、この本は、それらの失敗に対して、適切な解決方法を示してくれるでしょう。

さて、一口に株式投資といっても、たくさんのやり方があります。この本の投資スタンスは、基本3か月程度の保有、長くても7、8か月です。年単位の長期投資はしません。

これには理由があります。

まず、投資のベースとなる日本経済そのものが1997年以降、ほとんど成長していません。そんな状態で、長期投資もなにもありません。

さらに現在は、株価の動きは極端に早くなっています。AIやアルゴリズムを使った大口の取引、イナゴと呼ばれる個人の短期投機資金

などの影響でしょうか。以前なら、数年かけてじっくり上げた企業の株価も、あっという間に織り込まれてしまいます。その結果、数か月で天井をつけて下落という相場になることが多いです。

よく聞く話ですが、「結構な含み益だったのに長期で保有していたら、買値に戻ってしまった」こんな悔しい経験はありませんか？

これを避けるためにも、1つの売買を数か月以内に完結させるスタイルが最適かな、と思っています。

例えば、前述したアベノミクス相場において、日経平均は8年で3倍になりました。この期間、日経平均に連動した投資信託を保有していれば8年で3倍に増えたことになります。ただ僕は、8年かけて3倍になる銘柄を探すよりも、1年で3倍になる銘柄を探す方が楽です。少なくとも、年に1回そういう銘柄を当てられればよいわけですから。

手法については、デイトレのように画面に張り付く必要はありません。昼間仕事をしているサラリーマンでも、充分に対応可能なやり方です

帰宅後に日足ベースで株価をチェックすることで充分だと思います。僕自身もほとんど日足の「始値」と「終値」で売り買いをしています。

この本の目的は、あなたが株式投資で確実に利益を出して、保有資金を何倍にも増やすことです。僕は、そうなるまでには10年かかりました。しかし、あなたまで10年かける必要はありません。

この本の中に、利益を出すのに必要なエッセンスは、ほぼ入れ込んであります。「株でとにかく勝ちたい、利益を出し続けたい」という人は、ページをめくり続けてください。この本は、「あなたの努力に、利益という結果」で報いてくれるはずです。

2023年6月

結喜 たろう

目次

まえがき 1

セクション1 基礎編

序章 なぜ、株式投資は上手くいかないのか？ 9

- 本編に入る前に…… 10
- なぜ私が買うと下がって、売ると上がる？ 10
- 投資ルーティンと基本スタンス 19

第1章 私の投資ルーティン 21

- 1-1 手順①：銘柄を探す 23
- 1-2 手順②：成長性を調べる 37
- 1-3 手順③：チャート波動の分析 52
- 1-4 手順④：戦略シナリオの作成 65
- 1-5 手順⑤：数回に分けた買付け 73
- 1-6 手順⑥：数回に分けた利確 81
- 1-7 ルーティン補足と売買テンプレート 94
- 1-8 ルーティンまとめ 100
- コラム 株式投資に必要な3つのこと 104

第2章 成長率のファクター 107

- 2-1 一般的な前年同期比 109
- 2-2 四半期成長率とは？ 112
- 2-3 ファクターの有効性をどう判断するか？ 117
- 2-4 PER、PBR、ROEは使えるのか？ 125
- 2-5 四半期成長率の有効性を確認する 140
- 2-6 中・大型株、小型株、新興株の違い 145

2-7	東証新区分による5分位分析	148
2-8	ローゼンバーグ方式の年成長率	153
2-9	四半期成長率のチュートリアル	155
コラム	四半期成長率はどこから生まれたのか？	167

第3章 チャートの波動 169

3-1	まず押さえておくべきこと	171
3-2	価格の波動：突破（ブレイク）	178
3-3	価格の波動：天井と底	185
3-4	価格の波動：トレンドラインとチャネルライン	193
3-5	価格の波動：押しと戻し	208
3-6	価格の波動：保ち合い	211
3-7	価格の波動：倍返し	218
3-8	時間の波動：支配的サイクル	221
3-9	時間の波動：1年、2年、3年、7年	229
3-10	時間の波動：30日、60日、90日	232
3-11	時間の波動：サイクルと日柄の応用	236
3-12	TradingViewを使ったチャート波動の分析	247
コラム	相場の千里眼	259

第4章 ポジションと資金の管理 261

4-1	投資資金を決める	263
4-2	証券口座と銀行口座	265
4-3	ポジションの管理	270
4-4	信用取引について	274
4-5	結局は、メンタルの問題	280
4-6	攻撃的な複利運用	282
コラム	危機的状況に陥らないために	289

セクション2

実践編

第5章 実際の売買履歴	293
5-1 歴史的な立ち位置を知る	295
5-2 地合いの読み方と先行指標	302
5-3 市場テーマとリーディングストック	310
5-4 事例① 3856 Abalance	316
5-5 事例② 2121 ミクシィ (思惑相場編)	366
5-6 事例③ 2121 ミクシィ (業績相場編)	392
5-7 事例④ 6258 平田機工	436
5-8 補足 空売りについて	476
コラム 投資とリズム感	488
あとがき	490

基礎編

なぜ、株式投資は 上手くいかないのか？

本編に入る前に……

なぜ私が買うと下がり、売ると上がる？

投資ルーティンと基本スタンス



本編に入る前に……

この章は導入編です。最初に、「なぜ、株式投資は上手くいかないのか？」その原因についてお話したいと思います。

株式投資は10人中9人が失敗すると言われますが、もし、あなたが上手くいっていないのであれば、遠回りに思ってもまずは、ここで書いている内容に自分のこれまでの投資が当てはまるかを考えてみてください。

特に本章と次章では、この本で伝えたい内容をギュッと濃縮しています。第2章以降を読み進めていく中で、もし迷子になったら、ここに戻ってきてください。そして、そもそも「何を、何のために学んでいるのか？」を再確認してみるとよいでしょう。

続く第1章では、僕が実際に行っている投資ルーティンを参考としてご紹介します。あなたがまだ、株式投資において決まったやり方を見つけていなければ、また、なんとなくのやり方に自信をもてない場合には、試しに僕の手順を真似してみてください。売買に再現性を持たせるために、売買をテンプレート化したものも載せています。

なぜ私が買うと下がり、売ると上がる？

株式投資で、こんな経験がありませんか？

上がると思って買った株。ところが、買ったとたんにとんどん下がりはじめた。「なんで!？」と思いながらも、下げに耐え続けるが、さらに株価は下げていく。「頼むから戻して!」と祈るように願うも、一

向に下げ止まらない。耐えられる含み損も限界に来たとき、「もうダメだ！」と吐き気すら覚えながらようやく損切り。すると、それを待っていたかのように株価は底を打ちし、するすると上がっていく。

まるで、市場があなたをカモにしているかのように……。

損切りしたあと株価は反転し、どんどん上昇していく。そこで慌てて買い戻した。当然、損切り価格よりも高値で。ところが株価はまたしても、買い戻したところを天井に下げ始めた……。

結局、最初に損切りをした価格か、それより下で、もう一度損切りをするハメになる。

この展開にしばらく呆然としてしるが、それが収まってくると、「こんな株、二度とさわるものか！」と怒りがわいて、パソコンの取引画面を閉じる。

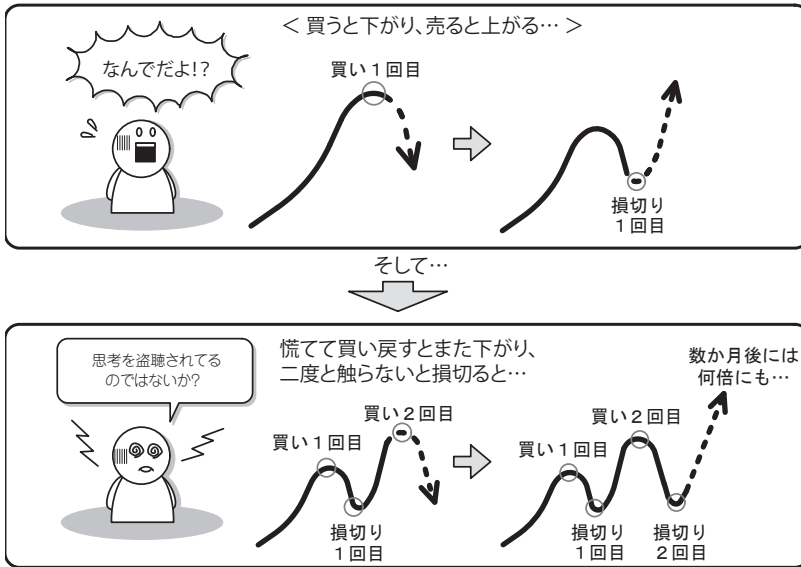
ようやく怒りや落胆も収まり、その株のことをすっかり忘れた数週間後、「そういえば、あの株はどうなったんだろう？」とチェックしてみると、驚いたことに、最初に買ったときの2倍の価格にまで上昇していた。

最初にあたふたと慌てふためいた売買をしなければ、投入した資金は2倍になっていたはず。代わりに残ったのは、ものすごい自己嫌悪だけ。

この話、トレード経験者であれば「あるある！」と、うなずくのではないのでしょうか？ もちろん、僕も何度も経験しました。悔しさのあまり、コーヒーカップをたたき割ったこともあります。

笑えない話ですが、トレーダーの中には「自分の思考が盗聴されている」と思いこむ人もいます。でも、その気持ちはよくわかります。なにしろ自分のポジションと逆をいくタイミングが、絶妙だったりするのですから。

買うと下がり、売ると上がる・・・



それにしても、なぜこのようなことになるのでしょうか？
それには3つの理由があります。

- ① 銘柄の判断ができていない
- ② 売買タイミングを分かっていない
- ③ ポジションを取りすぎている

理由が分かれば、その適切な対策を立てることで、先の状況を回避できます。では、3つの理由をそれぞれ詳しく考えてみましょう。

① 銘柄の判断ができていない

よく分からないけれど買ってしまった、という経験はありません

か？ 誰かに勧められたから、雑誌に書いてあったから、株式サイトの
の上昇ランキングに載っていたから、などいろいろあると思いますが、
要するに「なんとなく上がりそうだから買った」というパターンです。
よく分からない銘柄だから、上がったりが下がりたりする理由もよく分
からない。よって、自分のポジションに自信が持てずに結局、右往左
往してしまうのです。

株は人気投票です。

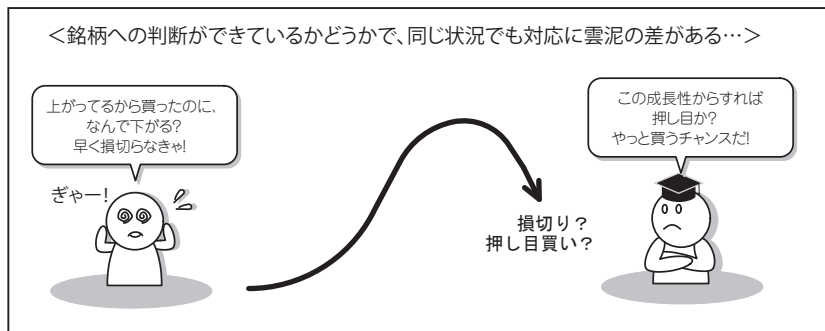
人気のある銘柄は、同業他社よりも割安であったり、割高であって
も将来にわたって高い成長性を期待させたりするものです。

例えば、ここに500円の株があるとします。これが本来1,000円の価
値を持つものだったらどうでしょう。あるいは、いずれ大きく値上が
りすると分かっていたらどうでしょうか。当然、人気が出ますよね。
つまり「人気がある理由」を、ちゃんと理解してないとダメなわけ
です。理解していれば、500円で買った株が仮に400円に下がったと
して、いずれ1,000円になるという確信につながり、保有し続けるこ
とができます。

また人気があるということは、その株に、上昇を期待させる「何ら
かの優位性がある」ということです。では、どうすれば優位性のある
銘柄を探せるのでしょうか？

ちなみにその優位性、あなたはどのようにやって探っていますか？

銘柄をどう判断するか？



通常は「業績の良さ」や「割安」だと判断したものに注目しますよね。その際によく参考にされるのが、「投資指標」と呼ばれるものです。代表的なものにPER（株価収益率）やPBR（株価純資産倍率）、ROE（自己資本利益率）、時価総額などがあります。これらの良し悪しは株価に影響を与え、そういったものを「ファクター」と呼びます。業績から計算する前年比や配当利回りなどもファクターです。

ファクター = 株価に影響を与える指標

ここまで読まれて、「なんだ、結局、低PERや高ROEのものを探して買えっていう、よく聞く話か!？」と思われたかもしれませんが、全然違うので安心してください。順々に解説していきます。

よく証券会社のサイトに「スクリーニング機能」ってありますよね。低PERや高ROE、あるいは乖離率といった条件で検索すると、それに合わせた銘柄を上位から表示するものです。しかし、そもそも、なんでそんなことをするのでしょうか？

それは、「PERの低いものほど、ROEの高いものほど、株価が上がる傾向がある」と思われているからです。要するに、PERやROEといったファクターが有効である、という前提でスクリーニングされて

いるわけです。

では、そもそもスクリーニングの対象にしている、それらファクターが「本当に有効」なののでしょうか。つまり、本当にPERの低いものを買えば上がるのか？ ROEの高いものを買えば上がるのか？と気になって当然です。それらについては実際に、第2章で細かく調べていますが、気にならないという方は飛ばして結構です。

さて、スクリーニングで上位に出てきた銘柄ほど、「本当に」株価を上げる可能性が高ければどうでしょうか。その場合、それはとても有効なファクターと言えますよね。つまり銘柄の良し悪しを判断するには、「有効なファクター」を見つけだし、参考にすればよいのです。

本書では、僕が株式投資で利益を出せるようになったきっかけであり、しかも長年使い続けている中で「有効性が高い」と判断できたファクターをご紹介します。

実際に僕自身が成果を上げられているので、とても残念に思っているのですが、この「ファクター」は、個人投資家には殆んど知られていないと思います。恐らく、この本で紹介するのが最初ではないでしょうか。なので、せっかく本書を手にとってくださった皆さんには、その有効性をしっかりお伝えしたいと思っています。後章で具体的に説明しますので、楽しみにしててください。

ファクターを知ること、あなたの投資パフォーマンスは相当に改善されるはずです。僕がそうであったように……。

②売買タイミングを分かっていない

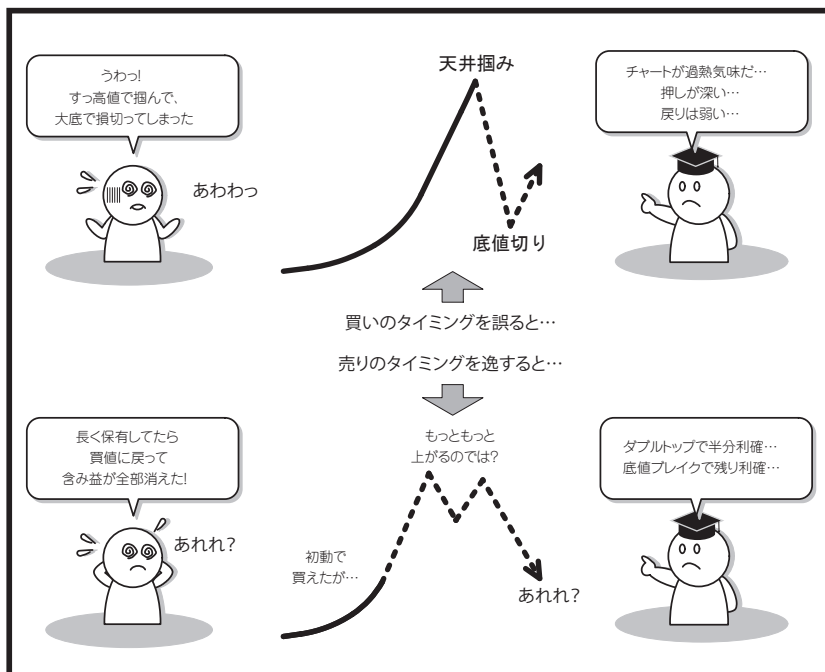
株価というものは、一本調子では動きませんよね。どれほど成長性の高い銘柄だとしても、株価は上がったたり下がったりと波のような動きをします。結果的には大きく上昇した銘柄でも、買うタイミングを誤ったために全然利益が出せなかった…ということもあります。

株価は短期から長期にわたる材料や、刻々と変化する地合いによって、複雑な動きになるからです。

タイミングを誤ると、いくら上がる銘柄だと確信していても、買った途端に含み損を抱えるといったシンドイ思いをします。上がる株を上がるタイミングで買うというのが理想ですが、そう容易ではありません。それを探るために、「市場心理」というものを理解しておきましょう。

市場心理という難しい話に聞こえますが、それが見てとれるものがあります。株価チャートです。チャートが右肩上がりであれば強気であり、右肩下がりであれば弱気の心理を示します。そこで、巷にはチャート分析の情報や指標があふれているのです。

売買タイミングを誤ると・・・



本書ではチャートの動きを波と見立てて、「チャートの波動」という視点でチャートを分析します。チャート分析というと、過去のチャートに様々な線を引いて、「この時は、こうすればよい、ああしなきゃならない」となりがちです。そうすると「そりゃ、あとからなら何とでも言えるでしょ」となってしまいます。これじゃ使えません。

いくら過去を精密に分析できても、「未来を予測できなければ、なんの意味もない」のです。チャートは「単なる絵」ではありません。チャートは「波」です。常に動いているのです。

サーフィンをやったことがある人はイメージしやすいかと思いますが、上手い人は今の波の動きを見ながらも、次にその波がどう動くかを常に予測しています。そして波の変化に合わせて、ボードの向きや角度を常に調整しています。

株式投資もそれと似ています。株価という波を乗りこなすためには、「これまでの波の動き」を見て、「次に来る波の動き」を予測します。チャートの波動とは、未来を予測する分析です。波動を理解すれば、底値付近で買うことや、当面の高値付近で利確できる可能性が高くなります。なお、チャートの波動の具体的なものについては、第3章で詳しくお話いたします。

③ポジションを取りすぎている

実はこれ、一番重要なポイントだと僕は思っています。

ポジションとは、保有している株のことですよね。どれだけ適切な銘柄を探し出せても、どれだけ適切な売買タイミングを掴めても、自分の資金量に見合わない量の株を保有していると、ほぼ間違いなくメンタルをやられて失敗に終わります。

例えば、あなたの全財産が100万円だったとします。その全てを投入して株を買った場合、株価が下落したときに、ものすごい恐怖を感じ

じるのはイメージできますよね。信用取引ならば口座資金の3倍まで株を保有できるため、もし100万円の資金で300万円分の株式を保有して、株価が3分の1にでも下がってしまったら……。もう絶望、破産です。そんな人はいないと思うかもしれませんが、実際に聞く話なんです。

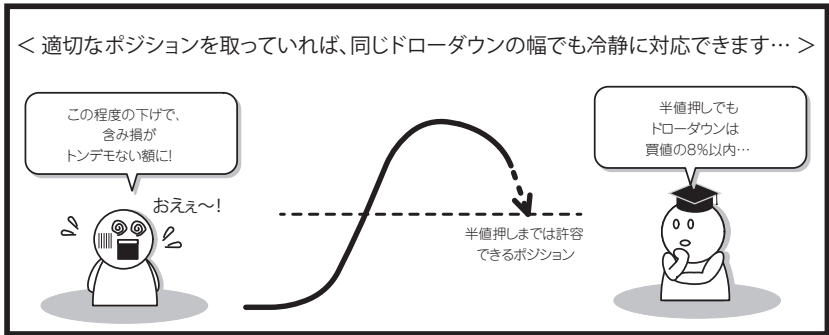
破産までいなくても、ちょっとした株価の上下でハラハラと感情の乱れが出てしまい、仕事も手につかなくなります。特に小型株や新興株は、動き出すと短期的に乱高下をします。結果的に株価の動きに振り回されて、「上値買いの底値売り」をしやすいくなります。

逆に、100万円のうち50万円ぐらいを株式トレードに回した場合はどうでしょうか。極端な話、投資分の50万円が半額になっても25万円の含み損、その時点で損切りをしても75万円、つまり全財産の4分の3が残ります。十分やり直しの効く額が手元に残るわけです。

急がば回れといいますが、短期間で一気に金持ちになろうとするよりも、無理をせずに着実に利益を出そうとする投資家の方が、長い目で見れば成功していることが多いです。

「どのぐらいの資金で、株を保有すればよいのか」ということも銘柄選定やタイミングと同じぐらいに重要です。このことは、「**資金管理** (マネーマネジメント)」などとも呼ばれていますが、根底にあるのは精神 (メンタル) の管理だと思ってください。自分の心の具合をしっかりと管理するためにも、資金をどう投入してどのように運用するかが大切になります。

ポジションの運用と管理はメンタルに直結する



これらのことも実際の売買例などを用いて、あとの章で実践的に説明したいと思います。たまに信用レバレッジを最大までかけて勝負に出て大成功する人もいますが、そういう人は本当にごく稀だと思ってください。投資においては、運によって儲けたお金は必然によって失くします。

ポジションの効果的な運用と管理法に関しては、第4章でお話します。

投資ルーティンと基本スタンス

失敗する原因3つについて、それぞれお話ししました。成功するためには、その3つをそれぞれ1つひとつを潰していけばよいわけです。

そのための解決方法として本書では、「有効なファクター」「チャートの波動」「ポジション管理」について紹介していきます。ですが、その前にまず、次章で僕自身が普段用いている投資ルーティンを紹介させてください。

すぐにでも知りたいと思われるかもしれませんが、本書でお伝えます

るやり方や知識が、実際の売買でどのように活かされているのかを先に知っていただくほうが、各章の解説に関して、全体像をより掴みやすくなると思うからです。

では、次章からより具体的に解説していきます。

私の投資ルーティン

手順①：銘柄を探す

手順②：成長性を調べる

手順③：チャート波動の分析

手順④：戦略シナリオ

手順⑤：数回に分けた買付け

手順⑥：数回に分けた利確

ルーティン補足と売買テンプレート

ルーティンまとめ

コラム 株式投資に必要な3つのこと



本章で紹介するルーティンは、最初は結果が出ず延々と負け続けていた僕が、10年以上勝ち続けることができるようになるまでに少しずつ試行錯誤で積み上げて作ったものです。ぜひ、皆さんのルーティンと比較しながら、読み進めていただければと思います。

手順は全部で6つ。①～②は銘柄の探し方、③～④は売買タイミングの決め方、⑤～⑥はポジションの運用と管理です。なお、このルーティンは「日足ベース」です。兼業のサラリーマン投資家には、十分に適したやり方だと思います。

<投資ルーティン手順>

- | | | |
|------------|---|-------------|
| ①銘柄を探す | } | 銘柄の探し方 |
| ②成長性を調べる | | |
| ③チャート波動の分析 | } | 売買タイミングの決め方 |
| ④戦略シナリオの作成 | | |
| ⑤数回に分けた買付け | } | ポジションの運用と管理 |
| ⑥数回に分けた利確 | | |

<売買のスタンス>

- ・保有は数週間から数カ月単位 ⇒ 長期投資ではない
- ・場中に張り付かない ⇒ デイトレではない
- ・衝動的な売買はしない ⇒ 勝ち負けは全て戦略的に

各手順の頭には<チェック項目>を載せておきました。それでは、手順にそって解説して行きましょう。

1-1 手順①：銘柄を探す

<チェック項目>

- 値上がり率ランキング（順位、出来高、市場）
- チャートの形
- 銘柄の基本情報（時価総額、予想PER、材料）

○値上がり率（概要）

まず、個別株というからには、投資対象となる銘柄がなければなりません。あなたは、どうやって探していますか？

僕は「いま上がっている銘柄」で、「明日以降も上がるだろう」という銘柄を探すようにしています。地合いによっては、「いずれ近いうちに上がるだろう」という銘柄を探すこともありますが、基本的には、前者だと思ってください。

じゃあ、どうやって見つけるの？ということになりますが、「いま上がっている銘柄」を探すのは簡単ですよ。毎日の『値上がり率ランキング』（前日比）を見ればいいだけです。メジャーなサイトではyahooファイナンスなどがありますが、どの証券会社の取引サイトでも、毎日の値上がり率ランキングは無料で閲覧できるはずです。それを見れば、その日、最も上昇した銘柄の順位がずらっと出てきます。

ランキング表では、「順位」、「出来高」、「市場」を見ます。

「順位」ですが、あまり上位に入っているかどうかを気にする必要はありません。要は銘柄を知る切っ掛けがランキング表なわけです。大体上位50銘柄までを見ればよいかなと思います。

むしろ、順位以上に気にするのが「出来高」を伴っているかどうかです。出来高が大きいということは活発に売買されている、つまり、

それだけ人気があるということです。

そして「市場」ですが、大型株が多いプライムよりも、新興や小型株の多いスタンダードやグロースの方がよいでしょう。ただ、プライムが絶対にダメというわけではありません。基本的にグロースやスタンダードの方が、この本のやり方には適しています（市場の特性については、第2章でお話します）。

ここまで挙げた「順位」と「出来高」と「市場」の3つは、値上がり率ランキングを見ればすぐわかる情報です。例として次ページ図表1.1.1にyahooファイナンスが提供しているものを載せておきました。

○チャートの形（概要）

次は、『チャートの形』です。僕は、気になる銘柄があると、すぐにチャートを見ます。チャートから得られる情報というのは、特に優先度が高いと思ってください。チャートは日足で直近6カ月の範囲を見ればよいでしょう。6カ月というのは（制度）信用取引の返済期日だからです。

チャートは、使い慣れているツールがあればそれで構いませんが、yahooファイナンスも含めほとんどのサイトでは、ランキングの銘柄名をクリックすると、簡単なチャートの載っているページに飛べます。そういったチャートはサイズも小さく機能も限定的なので、詳細な分析には不向きですが、この段階では、まだ細かく見る必要はないので、その程度のもので充分です。それらを次々にパッパッと見て、形の良いものであればエントリー候補にしてください。どういうチャートが良い形かは後述します。

○銘柄の基本情報（概要）

値上がり率ランキングとチャートである程度、候補が絞れてきたら『銘柄の基本情報』を確認しましょう。基本情報で必要なものは、

「時価総額」と「予想PER」、そして「材料」の3つです。

調べるのは簡単です。例えばyahooファイナンスでいえば、ランキング表（図表1.1.1）に載っている銘柄名をクリックしてみてください。

図表1.1.1 例) yahooファイナンス値上がり率ランキング (2022/5/31)

順位	名称・コード・市場	取引価	前日比	出来高
1	(株)小徳寿 9973 東証STD 掲示板	35 15.00	+7 +25.00%	13,250,800株
2	ピクスタ(株) 3416 東証GR 掲示板	1,510 15.00	+300 +24.79%	855,200株
3	(株)I Gポート 3791 東証STD 掲示板	1,756 15.00	+300 +20.60%	12,700株
4	アジア開発キャピタル(株) 9318 東証STD 掲示板	6	+1 +20.00%	17,327,000株
5	(株)ピアズ 7066 東証GRT 掲示板		+150 +18.43%	164,600株
6	サイバーステップ(株) 3810 東証STD 掲示板	15.00	+90 +17.82%	5,991,600株

銘柄名をクリックすると
図表1.1.2銘柄のように
「詳細情報」へ飛べます

参照：Yahoo!ファイナンス (<https://finance.yahoo.co.jp/>)

これらの情報がひと通り揃った「詳細情報」のページに飛ぶことができます。前述したチャートも同じページに載ってます。似たような個別株情報のサイトはたくさんあるので、ご自身が使い慣れたものを見ればよいでしょう。

それぞれの判断基準ですが、「時価総額」は小さい方が良いです。伸び代があるからです。あくまで目安ですが300億円以下ぐらいが良いかなと思います。全体の相場状況によっても変わるので、あくまで目安です。ただ時価総額が小さいと、それだけ乱高下するハイリスク銘柄ではあります。

「予想PER」を確認する理由ですが、これはバリュー投資を目的と

してからではありません。他銘柄と比較した割安感を見るためです。実際、予想PERの低さというのは、上がりやすい要因の1つになります（※予想PER有効性の有無は第2章で詳細に検証しています）。

図表1.1.2 3416 ピクスタ (yahooファイナンスより2022/5/31)



参照：Yahoo!ファイナンス (<https://finance.yahoo.co.jp/>)

そして、上昇理由となっている「材料」も把握しておきましょう。材料を調べる方法ですが、これもyahooファイナンスであれば、個別銘柄ページにある「ニュース」(図表1.1.2参照)タブをクリックすれば、材料に関連したニュースの一覧が出てきます。それらを見るのが効率的でしょう。

一次情報として、もっと詳しく内容を知りたい場合は、企業サイトのIRで開示情報やニュースリリースをじっくりと読んでください。

では、ここまでの流れをまとめます。

図表1.1.3 手順① 銘柄の調べ方 まとめ

チェック項目	調べる内容		判断基準
値上がり率 ランキング	○	順位	50位以内に入っているもの
	◎	出来高	出来高が大きいもの
		市場	スタンダードやグロース優先
チャート	◎	直近6か月のチャート	形の良いもの
銘柄の 基本情報		時価総額	なるべく小さいもの
		予想PER	なるべく低いもの
	○	材料	出来高を増大、株価を上昇させているか

※◎：重要、○：それなりに重要、無印：取りあえず調べておく

表には重要度にあわせて◎、○、無印を付けました。

たまに、「材料が最も重要ではないですか？」と質問されます。確かに重要ですが、まず注目すべきは、「出来高を伴って上げ始めているかどうか」です。そのうえで、「理由となる材料は何か？」をチェックするわけです。要するに、出来高を伴って株価を上昇させるものが良い材料なのです。いくら凄そうなネタだからといって、株価が無反応なら意味がありません。

ところで、わざわざ書くほどのことではないかもしれませんが、何をやっている会社かは、ちゃんと確認しておきましょう。どんな業種で、どんな商品扱っているのか、などです。

稀にですが、「買ってみたものの、何をやっている会社かよく知らない」という人を見かけるので、念のために書きました。

○値上がり率（作業）

ではここから先は、イメージしやすいように実際に僕が売買したときの実例をベースにして説明していきますね。僕は毎日、大引け後に100位までのランキングをエクセルに記録して目を通しています。

図表1.1.4 2021/6/22の値上がり率ランキング（前日比）

市場もチェック

出来高の
大きいものをチェック

順位	コード	名称	市場	年月日	終値	値上幅	前日比	出来高
1	7946	光陽社	東 2	2021/6/22	1340	300	28.85%	8,900
2	7970	エンジン <small>上場1年未満</small>	東マ	2021/6/22	2,695	500	22.78%	8,418,400
3	6993	大黒屋ホールディングス	✓ 東 2	2021/6/22	85	14	19.72%	✓ 40,263,400
4	9115	明治海運	東 1	2021/6/22	517	80	18.31%	✓ 1,446,400
5	6846	中央製作所	名 2	2021/6/22	1,360	201	17.34%	3,400
6	6628	オンキョーホームエンターテインメント <small>上場廃止予定</small>	J Q	2021/6/22	7	1	16.67%	2,079,900
7	4884	クリングルファーマ	東マ	2021/6/22	1,149	150	15.02%	272,000
8	2428	ウェルネット	東 1	2021/6/22	564	69	13.94%	✓ 2,228,800
9	2370	メディネット	✓ 東マ	2021/6/22	115	13	12.75%	✓ 87,184,500
10	7187	ジェイリース	東 1	2021/6/22	1,358	138	11.31%	✓ 902,900
11	9101	日本郵船	東 1	2021/6/22	5,670	530	10.31%	✓ 6,653,900
12	9104	商船三井	東 1	2021/6/22	5,300	490	10.19%	✓ 4,630,600
13	9107	川崎汽船	東 1	2021/6/22	3850	355	10.16%	✓ 3,705,900
14	8769	アドバンテッジリスクマネジメント	東 1	2021/6/22	1,197	104	9.52%	264,900
15	4390	アイ・ビー・エス	東 1	2021/6/22	2,825	237	9.16%	248,100
16	4425	Kudan	✓ 東マ	2021/6/22	4,050	330	8.87%	357,000
17	7190	マキョリアイノベーション <small>上場廃止予定</small>	東 1	2021/6/22	791	64	8.80%	335,200
18	7058	共栄セキュリティーサービス	J Q	2021/6/22	3315	265	8.69%	17,600
19	4486	ユナイトアンドグローウ	東マ	2021/6/22	1771	141	8.65%	82,000
20	4958	長谷川香料	東 1	2021/6/22	2,412	190	8.55%	284,100
21	8256	プロルート丸光	✓ J Q	2021/6/22	229	18	8.53%	✓ 2,794,500
22	7157	ライフネット生命保険	東マ	2021/6/22	1,231	96	8.46%	145,000
23	4875	メディシノバ	日ヘラ	2021/6/22	455	35	8.33%	137,700
24	6768	タムラ製作所	東 1	2021/6/22	1,032	77	8.06%	✓ 57,056,300
25	9303	住友倉庫	東 1	2021/6/22	1,592	118	8.01%	402,600

図表1.1.4は、そんなデータの1つ、2021/6/22の値上がり率ランキング上位銘柄です。Excelに転記するデータ元は、前述したyahooファイナンスの値上がり率ランキングや、証券会社の情報サイトなど、コピペしやすいものを選んでもらって構いません。

ここでは25位までを抜粋しました。面白そうな銘柄があるか、この中から探してみましょう。ランキング表でチェックするのは「順位」、「出来高」、「市場」でしたよね。

「順位」については、100位までのランキングを記録しているのですが、最初は、ここに抜粋したように25位以内でもよいでしょう。慣れてきたら50位ぐらいまで幅を広げてください。

「出来高」の大きさは、細かく数字で決めているわけではありません。他と比較して、相対的に大きければチェックを入れています。

「市場」は新興市場を優先していますが、4位の9115明治海運や11位の9101日本郵船、13位の9107川崎汽船など、東証一部（現プライム）でも気になるものがあればチェックしています。

チェックする際の注意点も幾つか挙げておきます。

「上場1年未満のIPO」は、まだデータが揃ってないので（基本的に）外します。2位の7370 Enjinのように上場して日の浅い銘柄です。

「上場廃止が決まっている銘柄」も外します。6位の6628オンキョーと17位の7190マーキュリアなどです。

「低位株」は要注意です。1円上がっただけで上位に来るからです。6628オンキョーがそうですね。出来高も多いですが、仮に上場廃止が決まってなくても、こういうものは投資対象になりにくいです。

「出来高が少ないもの」も注意です。1位の7946光陽社や5位の6846中央製作所などです。閑散銘柄がわずかな出来高で一気に上げた可能性があります。これらは値板が薄いために買付けや利確で苦労します。ただし（6/22には無いのですが）寄らずストップ高のものは別です。大引け後に比例配分で約定が決まるので、わずかに数千株で上昇率トップにきたりします。その辺りの違いは注意しておいてください。

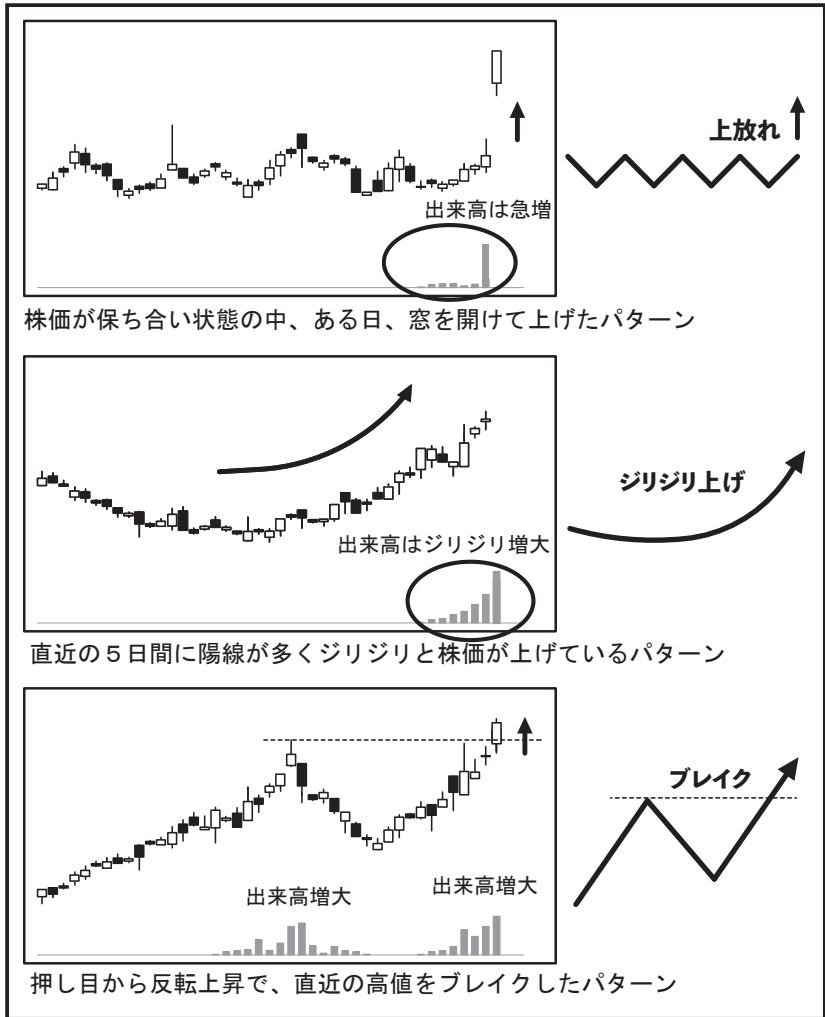
○チャートの形（作業）

次に、各銘柄の日足「チャートの形」が良さそうなものを選びます。

いきなりチャート分析か…と身構えてしまうかもしれませんが、既に述べたように、ここでは気になる銘柄のチャートを、ざっくり流れ作業的に見る感じです。

その中から、「まだ上げていきそうかなあ…」というものを選びます。この段階では、あまり細かく複雑には考えなくて構いません。とはいえ、「上がりそうなものを感覚で選べ」と言われても困ってしまうので、選ぶ基準を示しておきます。

図表1.1.5 「上がりそう」と判断する3つの基本パターン

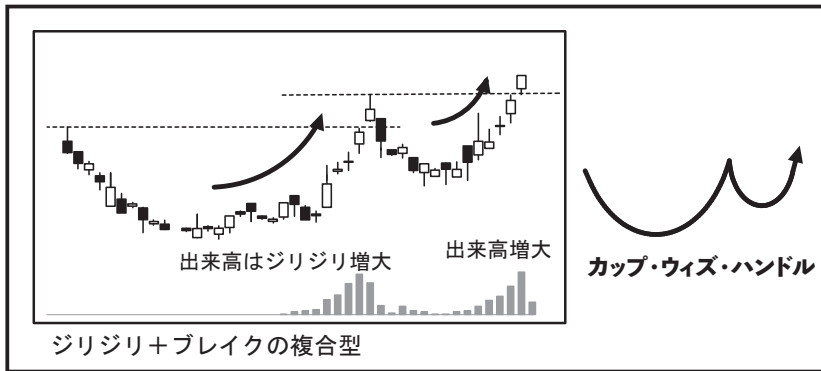


僕が、初見で「上がりそう」と判断するのは、この3パターンです。出来高を伴って、「上放れ」、「ジリジリ上げ」、「ブレイク」が起きているかどうかです。チャートの見方については第3章で詳しくお話しますが、次のように整理しておきましょう。

- ・上放れ … 窓を開けて一気に直近の高値を抜く
- ・ジリジリ上げ … 短めの陽線を多く出しながら緩やかに上げる
- ・ブレイク … 直近の高値をN字型で抜く

また、「ジリジリ上げ+上放れ」など、パターン同士が組み合わさったものなどでも大丈夫です。カップ・ウィズ・ハンドルなどの有名な形は、「ジリジリ上げ+ブレイク」にあたりますね。

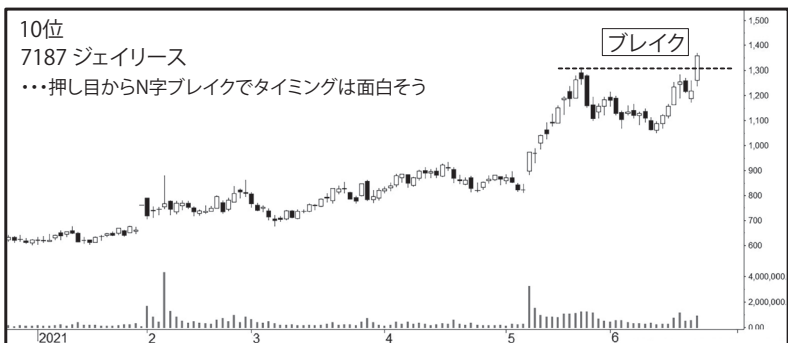
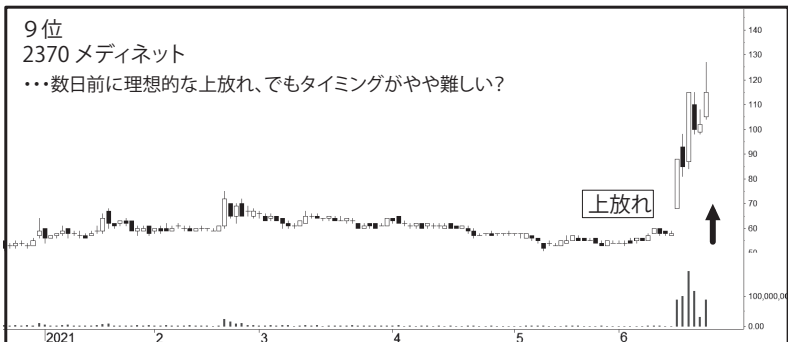
図表1.1.6 複合例 カップ・ウィズ・ハンドル



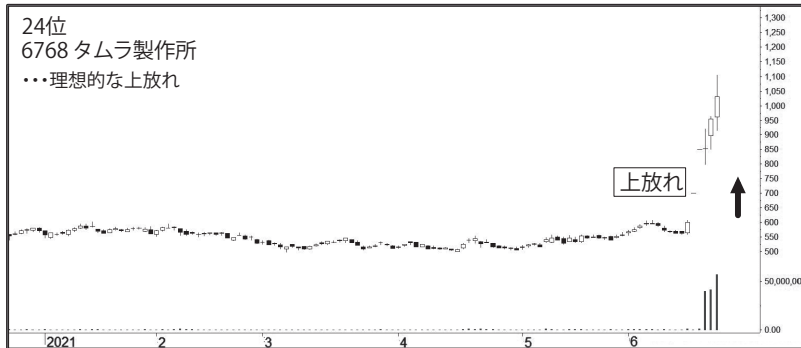
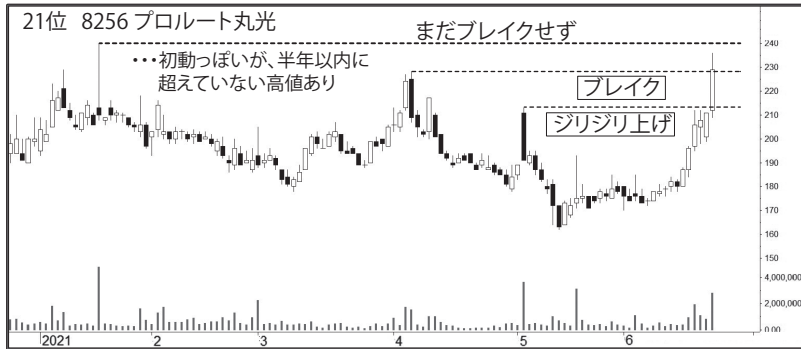
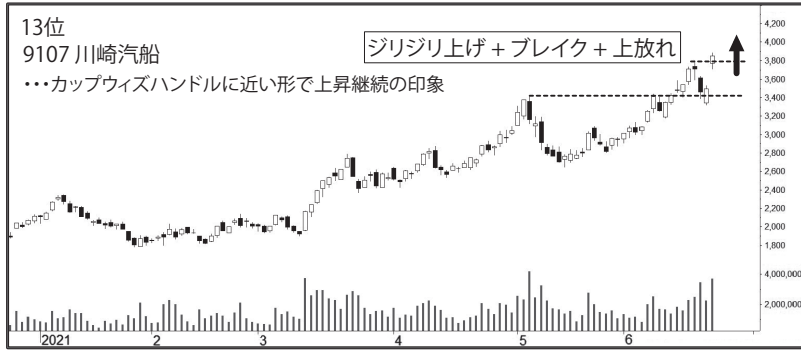
なお、近6カ月（制度信用の返済期日）以内で、突破していない高値があるかどうかを確認しておきましょう。6カ月以内につけた高値は、信用買いで捕まっているホルダーがそれなりにいることから、強い抵抗線になりやすいからです。

ランキングにチェックを入れた銘柄の中から、特に気になったチャートは図表1.1.7の6つでした。

図表1.1.7① 気になったチャート6選 (2021/6/22大引け時点)



図表1.1.7② 気になったチャート6選 (2021/6/22大引け時点)



- ・大黒屋ホールディングス (6993) → 押し目からのブレイクで上昇に勢いが出そう
- ・メディネット (2370) → 数日前に理想的な上放れ。でも、タイミングやや難しい？
- ・ジェイリース (7187) → 押し目からN字ブレイクでタイミングも面白いそう
- ・川崎汽船 (9107) → カップ・ウィズ・ハンドルに近い形で、上昇継続の印象
- ・プロルート丸光 (8256) → 初動っぽいのが、半年以内に超えてない高値あり
- ・タムラ製作所 (8256) → 理想的な上放れ

パッと見の印象はこんな感じでした。

このチャート判断には、多少の知識が必要です。詳しくは第3章でお伝えしますが、チャートというのは見れば見るほど投資頭脳が磨かれていきます。買う予定がなくても、値上がり率ランキングから、気になる銘柄のチャートをしばらく追ってみることをおすすめします。1日5分ぐらいでよいです。毎日続けていると、上がるチャートと下がるチャートというのが、自分の頭の中で段々とパターン化されていきますよ。

○銘柄の基本情報（作業）

この6銘柄について『銘柄の基本情報』を確認しましょう。具体的には「時価総額」、「予想PER」、「材料」でしたよね。先ほどの銘柄について調べたものを、図表1.1.8にまとめました。

材料に関しては、各企業に関する直近ニュースから株価を上げた原因と思われるものを記載しています。ついでに、各会社それぞれの業種と商品・サービスについても載せておきました。

図表1.1.8 各会社の業種と商品・サービス（2021/6/22大引け時点）

銘柄	業種	商品・サービス	時価総額 (億円)	予想 PER	材料
6993 大黒屋HD	小売業	中古買取	99.44	20.53	5か年事業・ 計画の策定
2370 メディネット	サービス業	医療 バイオ	203.76	—	他社と細胞療法 に関する契約
7187 ジェイリース	その他・ 金融業	不動産・ 保証	120.03	17.15	他社と業務提携
9107 川崎汽船	海運業	海運全般	3,616.62	10.26	市況改善で海運 セクター上げ
8256 プロルート丸光	卸売業	衣料・ ヘルスケア	65.06	65.06	新型コロナ抗体 検査キット関連
6768 タムラ製作所	電気機器	半導体など	854.20	38.52	次世代半導体

さて、「いま上がっている銘柄」が6銘柄に絞られ、それらについての情報もまとまってきました。

この段階で「チャートが良いから」、「材料が面白そうだから」と買いを入れる投資家もいるでしょう。しかし、それだと、「個人的にそう思う」というだけにすぎません。ギャンブル要素がかなり強いです。

ここからさらに投資候補として絞っていくには、まだいくつか確認しなければならないことがあります。それが、成長性という視点です。

ワンポイントアドバイス

ここまでで、「何からやったらよいか分からない!」という方は、27ページ「図表1.1.3 銘柄の調べ方 まとめ」を順番にチェックしてみましょう。どれもYahooファイナンスのようなサイトを流し見る程度で判断できる内容です。1日10分、2週間も続ければすぐに慣れます。慣れてくれば1銘柄1分ぐらいのスピードで、サクサクと調べることができるようになりますよ。

1-2 手順②：成長性を調べる

<チェック項目>

- 年成長率
- 四半期成長率
- 情報の最終確認（増資、大量報告、業績修正などの有無）

ここから先は、単にサイトの情報を見るだけではなく、ある程度、手を動かして数値を求める作業になります。

さて、株価が上げていく際の理由って为什么呢。いろいろあると思いますが、やはりなんといっても「企業が成長し続けている」という前提が必要ではないでしょうか。既に成熟した企業の中から株価が割安なものを探すよりも、多少割高でも業績がぐんぐん伸びていく企業のほうが、株価は長い目で見ても大きく化けていきます。

そういう成長の波に乗っている企業の株を「成長株」などと呼んだりしますね。ぜひ、そういう成長株を選んで積極的に投資しましょう！ …と、ここまではよくある話です。

でも、簡単に成長する株を見つけられたら苦労はしません。新興株＝成長株と決めつけて、ランキング上位に顔を出す新興銘柄をかたっぱしから買っていいですが、ちょっとリスクが高すぎます。テンバガー候補の成長株だと思って保有したら、高値つかみで10倍どころか1年で半分以下になってしまったなんてことは、ザラにあります。むしろ、そっちの方が多いのではないでしょうか。

では、どうやって探しましょう。「成長株」というからには、その業績の成長性を見なければ話になりませんよね。

一般的に業績の成長性というと、まず年単位で見ることが多いと思います。去年までの成長に比べて、今年ほどのくらい成長するかを知

りたいわけです。

というわけで、まずは『年成長率』を調べることにしましょう。

○年成長率

年成長率といって、単純に業績の「額」同士を比べてもよく分かりません。例えば図表1.2.1のように、とあるA社とB社が、それぞれ次のような経常利益だとします。

※経常利益については51ページ「深掘り」を参照。

図表1.2.1 A社とB社の経常利益と成長[額]の比較（単位：百万円）

	A社		B社	
	経常利益	成長[額]	経常利益	成長[額]
前々期実績	110	10	10	10
前期実績	120	10	20	10
今期予想	130	10	30	10

成長額は同じだが…

A社とB社ともに成長額が、毎年10百万円（1000万円）ずつ増えています。ならば両社は同じ成長性を持つと言えるでしょうか？ 違いますよね。

110が120に増えるのと10が20に増えるのでは、増えた「額」が10で同じでも「率」が違います。成長性というのは「成長額」ではなく、「成長率」で比較しなければ分かりません。

改めてA社とB社を「率」で比較すると次のようになります。

図表1.2.2 A社とB社の経常利益と成長[率]の比較 (単位：百万円)

	A社		B社	
	経常利益	成長[率]	経常利益	成長[率]
前々期実績	110	—	10	—
前期実績	120	9.09%	20	100%
今期予想	130	8.33%	30	50%

※成長率 = (今期予想 - 前期実績) ÷ 前期実績

前期実績を比較すれば、B社は100%もの成長率ですが、A社は9.09%とB社の10分の1以下です。B社の方が成長性は圧倒的に高いことが分かります。

なお今期予想で見れば、B社は前期に比べて半分とかなり鈍化しているようです。もし、株価がかなり上昇していた場合、鈍化への失望から大きく下がる可能性が高いです。

A社も今期の成長率は減っていますが微減で済んでいます。さほど株価が過熱していなければ、株価の下げは限定的かもしれません。

このように、成長「率」で比較した場合、成長性に対して得られる情報は各段に増え、かつ正確に分析できます。

以上を踏まえて、先ほど選んだ6銘柄の年成長率を図表1.2.3にまとめました。

図表1.2.3 6銘柄の年成長率比較表（2021/6/22大引け時点）

銘柄	業種	経常利益（百万円）	年成長率 ローゼンバーグ方式
6993（東2） 大黒屋HD	小売業 中古買取	2021年3月期：実績▲712 2022年3月期：予想1,092	実績▲58.2% 予想200%（黒字化）
2370（マ） メディネット	サービス業 医療バイオ	2020年9月期：実績▲836 2021年9月期：予想▲1,762	実績17.37% 予想▲71.29%
7187（東1） ジェイリース	その他金融業 不動産・保証	2021年3月期：実績911 2022年3月期：予想1,170	実績158.66% 予想24.89%
9107（東1） 川崎汽船	海運業 海運全般	2021年3月期：実績89,498 2022年3月期：予想45,000	実績169.43% 予想▲66.17
8256（JQ） プロルート丸光	卸売業 衣料・ヘルスケア	2021年3月期：実績54 2022年3月期：予想105	実績200%（黒字化） 予想64.15%
6768（東1） タムラ製作所	電気機器 半導体など	2021年3月期：実績2,384 2022年3月期：予想3,400	実績▲5.15% 予想35.13%

成長率を年単位で求めたものを「年成長率」としています。

予想には会社が開示している業績予想を用いています。もし会社が予想を出していない場合は、『会社四季報』業績欄の予想や、証券会社のアナリストが出しているコンセンサス予想などを用いてもよいでしょう。幸い、今回の6社は全て予想数字を出していました。

年成長率の計算方法には「ローゼンバーグ方式」を使っています。これは聞きなれない言葉かもしれませんが、一般的に使われている成長率（図表1.2.2下の※式）とは、やや異なる計算で求めたもので、優れた計算方法です。詳しくは第2章で解説しますが、ローゼンバーグ方式は数値の如何を問わず、対前年で黒字化は+200%、赤字化は-200%になります（一般的な成長率の計算方法では、黒転、赤転の場合に不具合が生じます）。大黒屋やプロルート丸光のところに200%という数字が出ていますが、これは「200%も成長している！」というので

はなく、単純に前期からの黒字化を表しているだけです。200という数字は大きさを表しているわけではありません。

では、図表1.2.3で、6銘柄の年成長率を見てみましょう。

株価は未来を織り込みに向かうことから、年成長率は実績とあわせて予想も求めています。

会社予想を信用するならば、メディネットと川崎汽船以外は、今期の1年間は成長することになりますね。大黒屋とタムラ製作所はマイナス成長からプラス成長に転じています。ジェイリースは成長鈍化の様相でしょうか。プロルート丸光は既に述べたように、前期赤字から今期は黒字化し、さらに64.15%の成長予想です。

6銘柄の年成長率を見比べてみましたが、会社予想というのは修正が入りやすいので、これらはまだ参考程度です。値が減少やマイナスだからといって、即ダメだとは判断しません。まだ、成長株を見つけるための前提条件を整理している段階です。

さて、ここまで年成長率を調べました。が、1年間って結構長くないですか？ 株価や業績は、日々刻々と変化しています。年単位の業績で大きな流れを見るのは基本中の基本ですが、一方で「1年間という過程の中で、業績にどのような浮き沈みがあったのか」などは見えてきません。

例えば、今期の業績予想を前期比2倍と発表していた企業があったとします。「去年と比べて利益2倍だ！ よし買おう！」と意気込んで買いました。しかし進捗率は上半期で30%、下半期は70%だとしたら、株価はどうでしょうか。

上半期では未達懸念から下がり、下半期では達成安心感から戻すかもしれません。「上半期の初めに買ったらずっと下げ続けた…。いい加減あきらめて損切りしたら、下半期で急に戻して、しかも何倍にも

なった！？」。そんな悔しい思いをすることも充分あり得ます。

そもそも1年間もあれば、業績に浮き沈みは出てきます。季節性から利益が上半期や下半期に偏っている企業はいくらもあります。そうになると成長率にも四半期ごとの偏りが出てきます。

通期業績で増益予想が出たからと言って、1年後に必ず株価が上がっているかという、実はそう単純でもありません。

言葉だけだと分かりにくいので、そのあたりのイメージを、次ページ図表1.2.4にまとめました。

では考えてみましょう。

会社が扱う業績の内、もっとも短い期間で発表しているものは何でしょう？ そう、四半期（3カ月）単位の決算ですね。上場企業は、四半期ごとの決算発表が義務付けられています。この3カ月単位で集計した業績を「決算短信」という形で発表しています。これをもとに、四半期における成長性を求めればいいことになります。

つまり年成長率だけではなく、『**四半期成長率**』を調べるわけです。

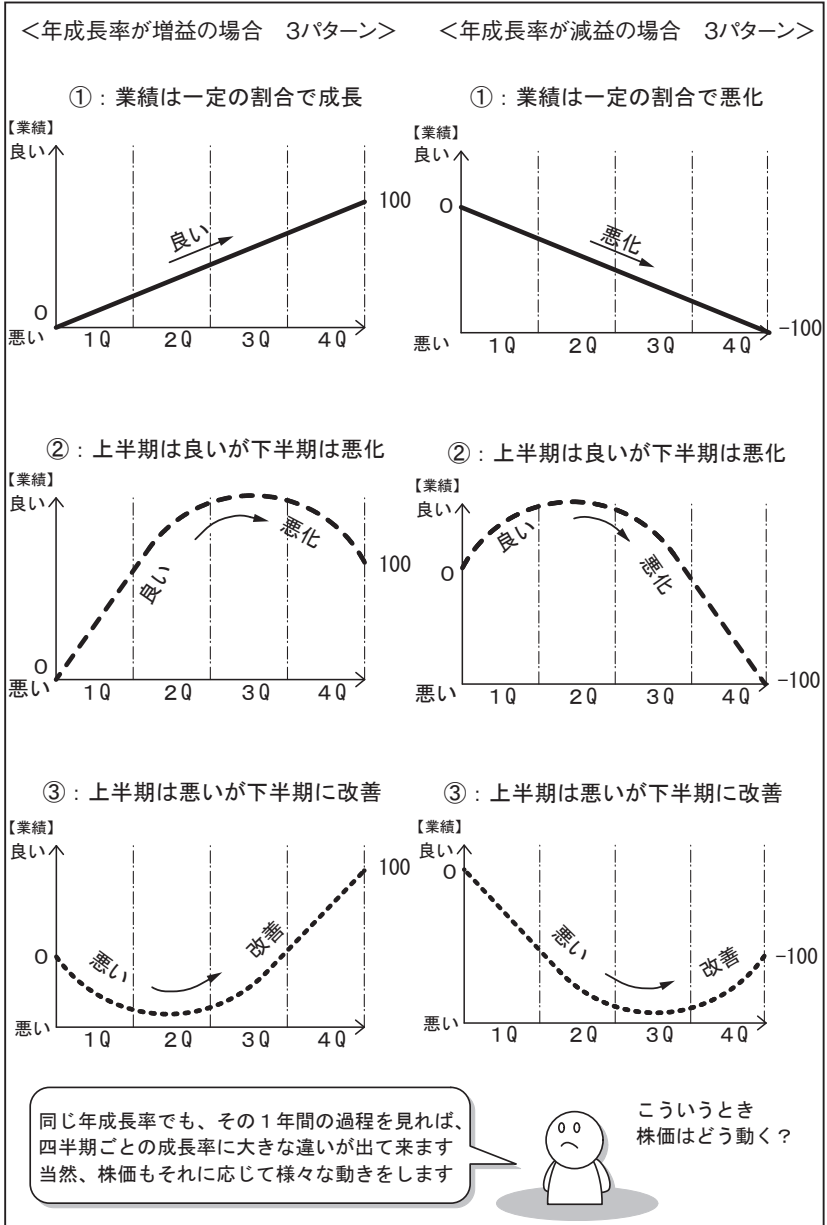
○四半期成長率

ここで、序章で触れた「有効なファクター」が登場します。それは「四半期ごとの成長性」をパーセンテージで示したものです。本書では、このファクターを「四半期成長率」と呼ぶことにします。四半期成長率は、数値が大きいほど成長性があることを示します。

序章で触れた「有効なファクター」

→ 本章で紹介する「四半期成長率」

図表1.2.4 1年間の成長率の浮き沈みイメージ



四半期成長率というと、一般的には前年同期比や前四半期比をイメージされる方が多いと思います。本書でこれから紹介する「四半期成長率」も前年同期比をベースにしていますが、計算式に工夫を凝らしたことで、非常に有効性の高いファクターとなっています。具体的にどう有効なのか、その辺りを厳密に検証したデータや証拠も、第2章でちゃんと用意していますので、楽しみにしてください。

計算が出てくることで拒否反応を起こされるかもしれませんが、ファクターの計算は、エクセルで業績の数字を入力すれば自動で算出できるシート（※本書特典として無料ダウンロード）を用意しましたので安心してください。

四半期成長率の具体的な概念や計算方法は、第2章で詳しくするとして、ここでは実際に求めた数字を、ここまでの6銘柄で比較してみましょう。

図表1.2.5 6銘柄の四半期成長率比較表（2021/6/22大引け時点）

コード（市場）銘柄名	直近発表日 （該当する四半期）	四半期成長率 （経常利益）
6993（東2）大黒屋HD	2021/5/14（4Q）	▲0.14%
2370（マ）メディネット	2021/5/12（2Q）	▲0.40%
7187（東1）ジェイリース	2021/5/11（4Q）	30.74%
9107（東1）川崎汽船	2021/5/10（4Q）	69.63%
8256（JQ）プロルート丸光	2021/5/6（4Q）	448.15%
6768（東1）タムラ製作所	2021/5/11（4Q）	19.50%

図表1.2.5は2021/6/22大引け時点での、それぞれの四半期成長率を計算・比較したものです。こちらも年成長率同様、計算には経常利益を使っています。

四半期成長率は、四半期決算の発表日ごとに更新されるので、直近の発表日も記載しています。

さて、四半期成長率の列を眺めてみると、プロルート丸光の488.15%という値に真っ先に目が行きます。かなり大きな数字です。しかも、上場している市場はジャスダック（現スタンダード）。この日の終値229円での時価総額は65.06億円と小型株で伸び代もありそうです。

材料を再確認しましたが、新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体検査を行う製品に絡んだもので、2021年の5/20、6/3、6/4と連日、IRで発表されていました。この材料は2021年6月時点では非常にタイムリーで話題性のあるものです。もともと四半期の成長性が高いところに、そういう話題性のある材料が出たことで急上昇するというのは、このファクターを使った投資における黄金パターンでもあります。

残りの5銘柄も気になりましたが、488.15%という数字が圧倒的で、材料も良く、チャートの初動っぽさ、ジャスダックという新興市場、65.06億円という時価総額、これらの要素を並べた結果、プロルート丸光を売買の第一候補としました。

ただ、予想PERは65.06倍とやや高い気もしたので、もし今回の材料がたいして業績に寄与しない場合は、一気に叩き売られる懸念があることは意識しておきます。

ここで候補を1銘柄に絞りました。

その1銘柄であるプロルート丸光の四半期成長率が、過去どんな推移をしてきたのかを調べてみたいと思います。今現在は2021/6/22時点なので、大体2年間ぐらいさかのぼって2020年3月期1Qから求めてみました。次ページ図表1.2.6は、それを時系列で示したものです。

図表1.2.6は、この本の読者特典として用意した「ファクター計算シート」です。詳しい使い方は第2章でお話しますが、このシートは、必要箇所に業績の数字を入れれば、先ほどご紹介したローゼンバーグ方式の「年成長率」や、この本の主要テーマでもある「四半期成長率」が、簡単に出来るようになっています。

ここで見て欲しいのは四半期成長率（①部分）です。上から下に向かって時系列で眺めると、2020年3月期の四半期は全てマイナス成長率ですが、次の2021年3月期からはプラス成長率へと転じています。

図表1.2.6 <8256プロルート丸光>の成長率（2021/6/22時点）

8256	プロルート丸光		※▲はマイナスを意味する				
	年度	四半期	発表日	経常利益（百万円）		四半期成長率	ローゼンバーグ 年成長率
				累積	単体		
2019年3月期 H31/R1	1 Q	2018/8/1	31	31			
	2 Q	2018/11/1	▲111	▲142			
	3 Q	2019/2/1	▲69	42			
	4 Q	2019/5/7	▲281	▲212	①		
2020年3月期 R2	1 Q	2019/8/1	▲34	▲34	▲15.12%		
	2 Q	2019/11/1	▲173	▲139	0.70%		
	3 Q	2020/1/31	▲213	▲40	▲19.29%		
	4 Q	2020/5/1	▲437	▲224	▲2.75%	▲43.45%	
2021年3月期 R3	1 Q	2020/8/4	0	0	8.44%		
	2 Q	2020/11/2	22	22	56.29%		
	3 Q	2021/2/2	36	14	20.77%		
	4 Q	2021/5/6	54	18	448.15%	200.00%	
2022年3月期 R4	1 Q		2021/5/6に出された通期実績				
	2 Q	②					
	3 Q						
予想	4 Q	2021/5/6	105			64.15%	
2021/5/6に出された通期予想 予想年成長率							

※累積＝同じ期におけるそれまでの四半期利益の合計
例) 3Q累積＝1Q単体+2Q単体+3Q単体

その2021年3月期の四半期成長率を具体的な数字で見ると、1Q：8.44%、2Q：56.29%、3Q：20.77%と良い感じで推移、4Qは448.15%とかなり大きな成長性です。

同時に年成長率も見てみると、2020年度は▲437百万円の赤字で、▲43.45%だったものが、2021年度は54百万円で200%と黒字化を達成しています。

さらに現在進行中の今期2022年度の予想は105百万円と、前期実績54百万円に対して2倍（②部分）、予想年成長率は64.15%と良好です。

投資対象としては、悪くなさそうですね。継続的な成長が望めそうだと判断できます。

図表1.2.7は、年成長率だけをまとめたものです。これを見ると年単位での成長性は、さらに分かりやすいと思います。

図表1.2.7 プロルート丸光の「年成長率」（単位：百万円）

発表日	期（通期）	経常利益 （百万円）	年成長率 ローゼンバーグ方式
2020/5/1	2020年3月期	実績▲437	実績▲43.45%
2021/5/6	2021年3月期	実績54	実績200%（黒字化）
	2022年3月期	予想105	予想64.15%

以上からこの銘柄の成長性をまとめると、「赤字から黒字化を達成、今期の通期予想は前期の2倍、さらに四半期は4連続プラス推移で直近は非常に大きな値」という状況です。

継続的に成長していることから、投資対象としては悪くなさそうですね。年成長率と四半期成長率は、このように補完し合う形で使うと、銘柄の成長性が立体的に見えてきます。

ここで銘柄探しの仕上げ、『情報の最終確認』をしましょう。

○情報の最終確認

直近6か月の中に情報洩れはないでしょうか。

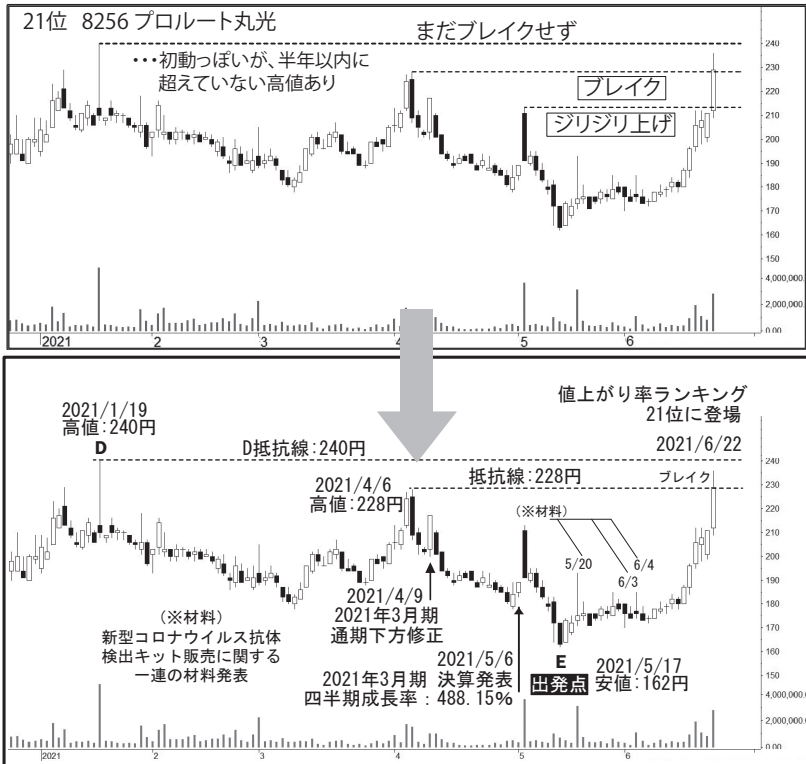
例えば、「増資」などが行われていないか、「大量保有報告書の変更」がないか、「上方（下方）修正」がないか、などです。この辺りは、直接企業サイトのIRから開示情報などをチェックしてみましょう。

特に増資の有無については注意してください。実は膨大な量の未行

使株が控えていた、なんてこともあったりしますので。また、社長が自分の持ち株を定期的に処分している、なんていうのも大きなマイナス材料になります。こういうのは投資家の信頼をなくしてしまい、しばらく上がらない、上がっても利確売りが出やすくなることが多いです。

図表1.2.8は、情報の最終確認を凶に落とし込んだものです。

図表1.2.8 情報の整理と最終確認



図表1.2.8の上段は「図表1.1.7 気になったチャート6選」に載せたものと同じものです。下段はそれに直近6カ月間の情報をメモしたも

のです。

増資などはありませんでしたが、2021/4/9に下方修正が発表されていたようです。ただ、その後5/6に発表された決算発表の数字は良好なものであったので、それは、すでに織り込み済みであり、6/22時点で足をひっぱるような悪材料ではなくなっています。

ところで、今回は上昇相場が始まると仮定して分析を始めているので、上昇の「出発点」となる場所を決めておきたいと思います。

チャートを見ると、新たな上昇が始まっているのは、2021/5/17の安値162円からですよ。そこで、ここを「出発点」としてEとしました。

なお、本書はチャート上に線やコメントを記載した図表を多数紹介しています。紙面のサイズ上、見えづらいと思いますので、図表の一部を見やすく拡大し色分けしたものを、冊子形式のPDFファイル『チャート集』として用意しました。別途ダウンロードできますので、本書だけで見づらければ、ぜひそちらを参考にしてください。

『チャート集』に掲載している図表は図表番号に、下に記した例のように下線をつけています。

例) 図表1.3.2 長期週足チャートの高さ長さ、支配的サイクル

ダウンロード方法は、パンローリングの書籍紹介ページでご確認ください。

・本書紹介ページ

<http://www.panrolling.com/books/gr/gr172.html>

ワンポイントアドバイス

この本では銘柄探しを基本的に値上がり率ランキングから探していますが、いろいろな投資雑誌や、有名投資家のブログといった他のメディアから見つけても構いません。

また、最初に値上がり率上位のチャートだけを次々とチェックして、面白そうな形があれば、そこから個別銘柄の情報を調べてもよいです。

僕は、雑誌や他の人のブログ、面白そうな形をしたチャートなど、気になる銘柄が出てきたら、取り敢えず四半期成長率を計算します。値が良ければ、直近の成長性が高い銘柄ということになります。そこから銘柄を深掘りして調べていき、もし面白そうであれば、次の「手順③」以降で行うチャート分析や戦略作りを行います。

人から教えてもらった銘柄でも、自分がその優劣を判断できれば、それは自分で発掘した銘柄と同じです。銘柄探しはいろいろとやってみるうちに、自分なりの得意パターンが出てくると思います。

また、四半期成長率に関してですが、ここでは一番値の大きい銘柄を候補としましたよね。しかし四半期成長率は、値が大きければ無条件に良いというわけでもありません。

あくまでその他の条件を総合的に吟味した上で、最終的な判断をしていることを覚えておいてください。四半期成長率が10%程度のものでも、他の条件が良ければ、十分に投資候補となります。

深掘り!

計算で使う経常利益

成長率の計算では「経常利益」を使っていますが、この辺りを補足しておきますね。

決算で発表される業績には、「売上」、「営業利益」、「経常利益」、「純利益」と4つがあります。通常は、この中で「経常利益」が重視されます。

「経常利益」とは、読んで字のごとく経常的な利益のことです。突発的に発生した（特別）損益や税金などを除いたもので、企業本来の実力で定期的に入ってくる利益を示します。

例えばA社の決算発表で、最終的な利益である「純利益」が、すごく良かったとします。前期100だったのに今期は300と3倍です。しかし、「経常利益」は前期120なのに今期60と半分に減っていました。はたして株価はどう判断するでしょうか。

実はこのA社、保有している土地を売却したことで、その期だけの特別益が発生しただけでした。本業は半分に減益していました。こういう場合、株価は大きく下がります。

要は一過性の利益ではダメという事ですね。「安定的に収益を得られているものが成長している」、それが評価されるわけです。

ちなみに、売却益を収益の柱とした投資部門のようなものが好業績だった場合も、あまり評価されないことが多いです。何故なら、今期の成績が良かったからと言って、来期も同様に好成績を収められるとは限らないからです。そういうビジネスモデルは、継続的に安定的な収益とはみなし難いからです。

1-3 手順③：チャート波動の分析

<チェック項目>

- 支配的サイクル
- 「上昇を阻む線」と「下落を防ぐ線」
- 出発点から30日、60日、90日の位置

ここまでの「手順①、②」を通じて「8256 プロルート丸光」を売買候補としました。これから行う手順③は、波動という視点から、銘柄のチャートを分析する方法です。

次ページに、注目した6/22時点からの直近6カ月の日足チャートと、直近7年間の週足チャートを載せました。この本ではチャートを波に例えています。図表1.3.1を見るとなんとなく同じ価格帯を一定の間隔でヨコヨコ繰り返しているのが分かるかと思います。

まず上の日足チャートを見てください。このチャートが「これから先、どのように変化していくのか、予想することができますか?」。これだけでは情報が乏しいですね。

何事もそうですが、未来を知るには過去を知る必要があります。過去に起きたことは、未来でも再び繰り返されることがあるからです。

詳しくは第3章でお話しますが、株式チャートでは、だいたい7年ぐらいで1つの大きな波を作ります。従って、過去7年分ぐらいのチャートを確認するとよいでしょう。そして、7年分であれば週足が適しています。

この週足を使って、手順③<チェック項目>の最初に掲げた『**支配的サイクル**』を求めていきます。

図表1.3.1 直近6か月の日足チャートと過去7年週足チャート



○支配的サイクル

では、「支配的サイクル」というのは何でしょうか。

サイクルとは周期のことです。支配的というのは、そのチャートの「根底に存在する」周期性を意味します。要するに、波のリズムを調べようというわけです。

目的は、株価の動きを長期的に見た場合、6/22時点が「上昇期」か、「下降期」か、あるいは「過去とは異なるサイクル」なのかを知るためです。僕はチャートのリズム感を掴むために、支配的サイクルをよく使います（チャートとリズム感については第5章のコラム参照）。具体的には、チャートの形に合うように「正弦波」を当てはめます。

正弦波というのは、高さや長さが一定の間隔でうねうね繰り返されるシンプルな波の基本形です。

次ページ図表1.3.2を見てください。チャート内では最高値が540円、最安値が47円です。株価は、その間を行き来しています。

波の高さは、低いもので265円（2017/12/11高値355円－16/6/24安値90円）、高いもので491円（2020/6/9高値538円－20/4/7安値47円）ですよ。

波の長さは、天井と天井、底と底で見れば最長で936日（2015/5/20～17/12/11）、最短で874日（2018/12/25～21/5/17）と、大体900日前後のようです。これらから、「支配的サイクル①」を描いてみました（正弦波の描き方は後述します）。

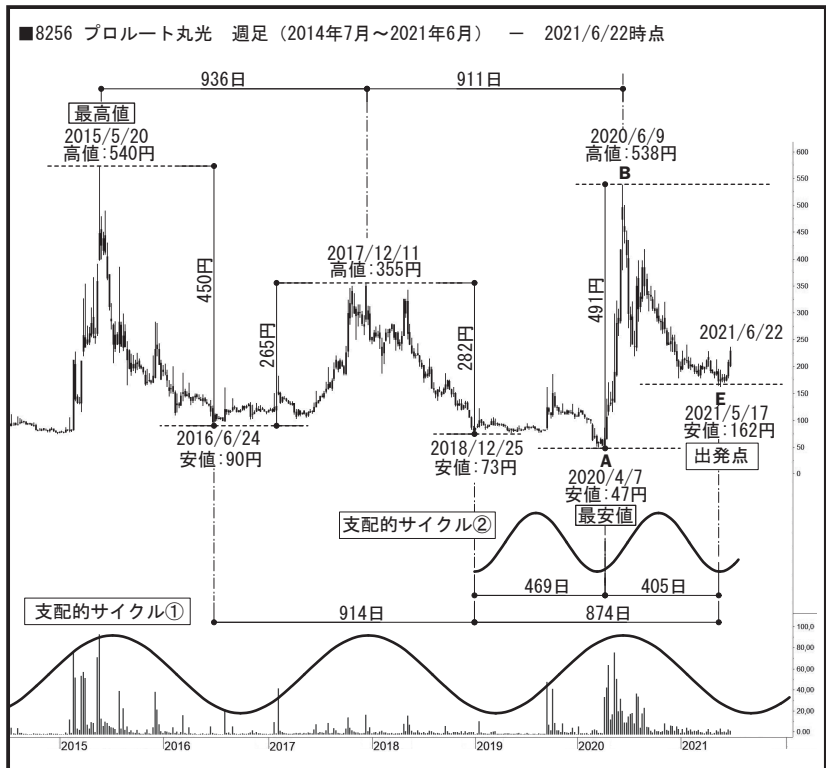
単純にこの支配的サイクル①の通りに波が繰り返されていると考えれば、2021/6/22はまだ下落途中で、株価の底打ち反転はまだ先ですね。しかし直近2020年辺りからは、これが当てはまらない動きになっている印象を受けませんか？ 例えば、A：2020/4/7の47円は最安値なのに、支配的サイクル①で見ると高値付近です。噛み合っていません。

もしこの時期、サイクルに変化が起きていたとしたらどうでしょうか。2020年の春先には新型コロナウイルスショックによる世界規模の大暴落がありましたが、こういう大きな出来事があると個別株の動きも習性が変わったりします。

仮に2021/5/17 E「出発点」が、20/6/9のBから続く下落トレンドの反転位置とすれば、18/12/25とAは469日、AとEの底底は405日と、

底同士の長さは近い値となります。こちらに当てはまる正弦波を「支配的サイクル②」とすると、2021/6/22は株価が上昇期に入っていると見ることもできます。

図表1.3.2 長期週足チャートの高さ長さ、支配的サイクル



ごちゃごちゃと書きましたが、簡単に言えば、「支配的サイクル①」は週足7年間で見えた全体のリズムですが、直近の1年ぐらいで見ると「支配的サイクル②」のリズムに変化してきているという話です。

前者は2021/6/22の株価はまだ下落途中であり、後者では反転上昇期に入っていることとなります。つまり印象としては、年単位で長期

的に上げて行く流れというよりは、日、週の単位で短期的に上げて行く感じなのかな…という感じです。

ワンポイントアドバイス

正弦波を描くコツですが、最初から無理矢理、天底を合わせようとすると上手くいきません。まずはチャートの高値と高値を正弦波の頂点に合わせてください。次の底部分を調整すると、それっぽいものができます。逆に、安値と正弦波の底を併せて高値を調整しても構いません。どちらか合わせやすい方でやってみてください。

各種ラインや正弦波のようなうねりのある線をどうやってチャート上に描くかですが、以前はチャートをプリントアウトして、そこに手書きで描いていくという、アナログなやり方をしていました。

今はTradingView (<https://jp.tradingview.com/>) を使っています。

TradingViewはブラウザ上で無料で使用できるチャートソフトです。操作性に優れ、多岐にわたる金融商品のチャートが表示できたり、インジケーターも内蔵されていて、世界中のトレーダーに愛用されています。正弦波を簡単に描けるコマンドもあるので、作業が効率化できます。

このあとに出てくる30、60、90日などの各線も「垂直線」や「日付範囲」などを使えば簡単に引くことができます。デリートも簡単なので、感覚をつかむために何度も試してみるとよいと思います。TradingViewの簡単な操作方法については、第3章にまとめています。

また、どうしても株価チャートと正弦波が噛み合わないときは、チャートに強いリズムがない状態です（たまにそういうことがあります）。そういう場合は無理に支配的サイクルを求めなくても構いません。

なお本当に余談ですが、フーリエ解析という手法を使って、サイク

ルを抽出する方法もあります。ただ、それなりに物理や数学の知識が必要になると、そうやって手間暇かけて求めた結果も、感覚的に描いたものとそんなに変わらないので、TradingViewなどのツールで作成したもので充分だと思います。

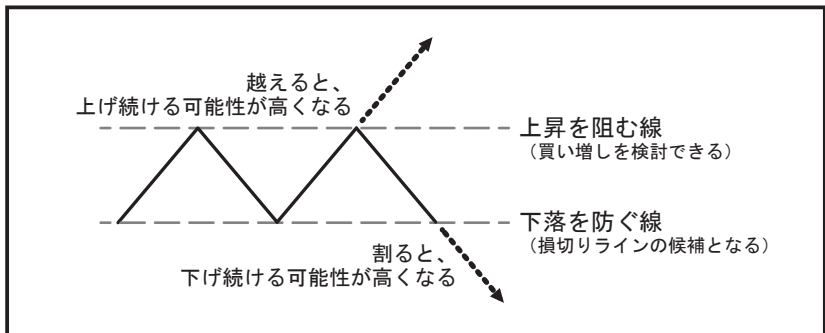
○「上昇を阻む線」と「下落を防ぐ線」

支配的サイクルを求めたら、手順③<チェック項目>の2つ目、「上昇を阻む線」と「下落を防ぐ線」を引いてみましょう。

これらは次のような意味を持つ線です。

- ・ 上昇を阻む線…ここを越えると、上げていく可能性が高い線
→ 買い増しを検討できる
- ・ 下落を防ぐ線…ここを割ると、下げていく可能性が高い線
→ 損切りラインの候補となる

図表1.3.3 「上昇を阻む線」と「下落を防ぐ線」イメージ



いきなりこれらの線を決めることはできないので、まずは過去の高値や安値から、6/22以降の動きに影響を与えると思われる抵抗線や支持線といった「線」を洗い出してみましょう。

「株価は抵抗線や支持線に向かう傾向がある」ので、それらを漏れ

なく調べておく必要があるからです。

ここで、【問題】を出します。

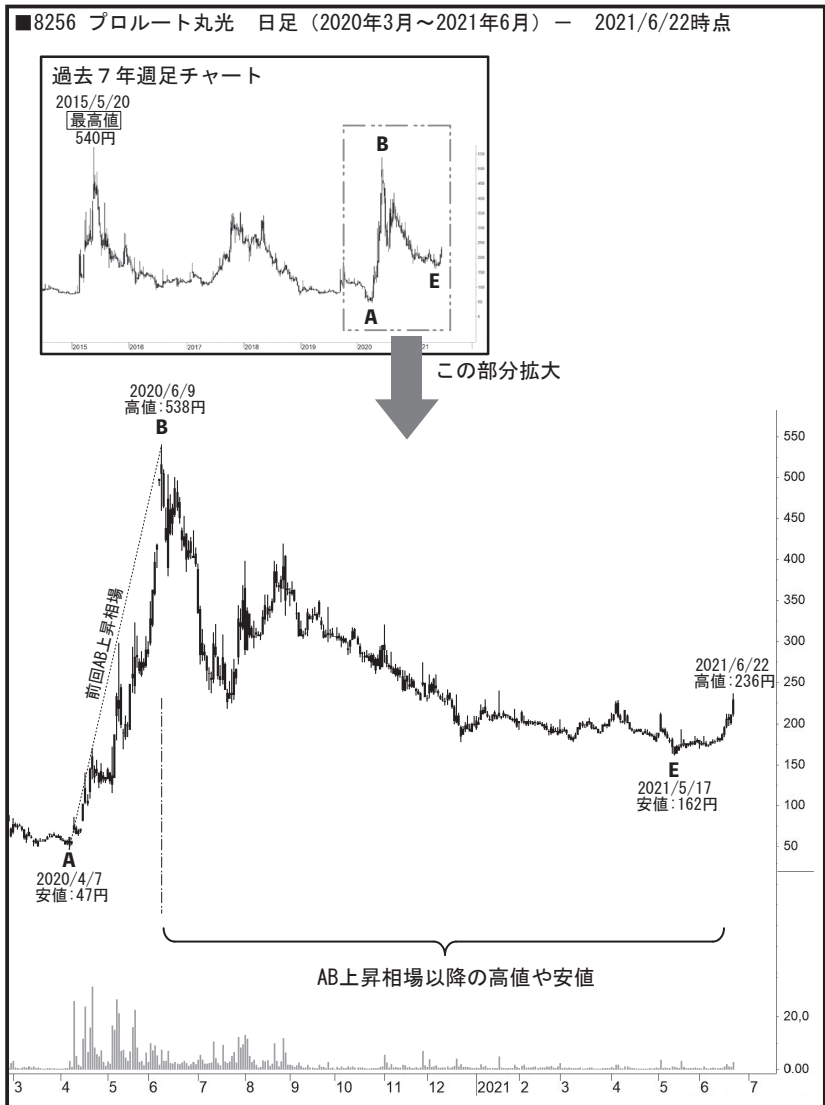
すでに、週足7年分で長期的なチャートを確認しましたよね。そのチャートには、いくつもの高値や安値があったと思います。それらの中で、6/22以降にも影響を与えてきそうなものは、どれでしょうか？

次ページ図表1.3.4aでは上部に過去7年週足チャートを、その下には前回のAB上昇相場以降の日足チャートを載せています。「この辺りの高値や安値が意識されそうだな」というのがあれば、鉛筆で印を付けてみて下さい。

ヒントですが、過去7年間で付けた最高値は2015/5/20の540円です。しかし、これは6年も昔であり、2019年に増資をして株数を増やしていること、高値Bの538円と近いことなどから、あまり考慮しなくてもよいと思います。

そうすると、6/22以降に影響を与えてきそうなものは、前回のAB上昇相場以降に付けた高値や安値ということになりそうです。

図表1.3.4a 【問題】 2021/6/22以降に影響を与える高値や安値は？



僕がこのとき考えた解答は、次ページ図表1.3.4bです。

本書の詳細・ご購入について

パンローリングの直販サイト「トレーダーズショップ」
(下記QRコードまたはアドレス)ほか、全国書店にて発売中!



<https://www.tradersshop.com/bin/showprod?c=9784775991879>

■著者 結喜たろう (ゆうき・たろう)

本名は外尾幸洋(ほかお・ゆきひろ)。(株)山幸投資事業部代表、一級建築士。東京都立大学大学院工学研究科修了。モノづくりに興味を覚え大学では建築学を専攻。建築設計事務所勤務を経て独立。不況で廃業寸前まで追い込まれるが、趣味で続けていた投資が、経営の立て直しに功を奏す。現在、空間建築デザイン業務と並行し、個別株を中心にさまざまな資産運用の実践に努めている。著書に『FXで究極の海外投資』(パンローリング)などがある。

・ブログ：<https://ameblo.jp/yuukitarou0322/>

・Twitter：@tarouyuuki0322

現代の錬金術師シリーズ ①72

四半期成長率とチャート分析

著者 結喜たろう
監修者 北山広京
発行者 後藤康徳
発行所 パンローリング株式会社
ISBN 978-4-7759-9187-9

【免責事項】

本書で紹介している方法や技術、指標が利益を生む、あるいは損失につながることはない、と仮定してはなりません。過去の結果は必ずしも将来の結果を示したものではありません。本書の実例は教育的な目的のみで用いられるものあり、売買の注文を勧めるものではありません。